

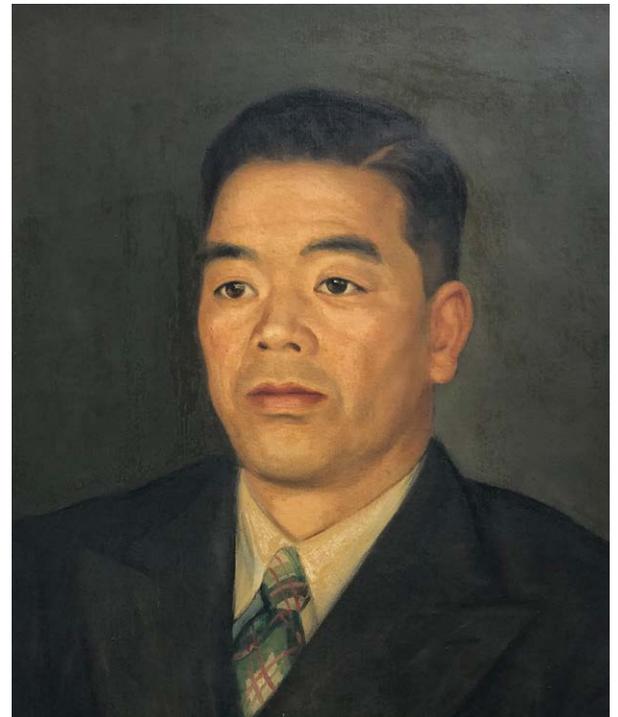


# 博物館だより

No.88 (2020.2.1)



三並が発明し製造した東芝自動式電気釜 ER-4



三並義忠の肖像

## おすすめの展示物 その5

### 自動炊飯の父 三並義忠の発明と技術

キャンプなど焚き火でご飯を炊くのは楽しいですね。鍋や飯ごうの状態を火の前でじっと見守る時間はワクワクします。でも、これが朝昼晩毎日続いたら？逆にそれは大変な仕事です。炊飯器ならスイッチ一つで勝手に炊いてくれるのに。

自動炊飯の誕生は1955年（昭和30）。愛媛県新居浜市出身の技術者で、光伸社社長の三並義忠が発明しました。子供の頃から機械いじりが好きな三並は、大阪、東京と働きながら夜学で工学を学び、1931年（昭和7）光伸舎（後の光伸社）を設立。機械の開発製造販売を始めます。三並は豊富なアイデアと確かな技術で特許や実用新案を取得し、数々の製品を世に出します。テープレコーダーや映写機の特許も持ち、それを生かした製品まで販売していました。

1953年（昭和28）、そんな三並に大きな転機が訪れます。古い知り合いだった東京芝浦電気（現東芝）の松本尚成部長から自動炊飯機構の開発を持ちかけられたのです。家族

一丸で開発した結果、どのメーカーも成し遂げられなかった自動炊飯を三並はわずか2年で完成させます。三並家の努力の結晶は1955年（昭和30）12月10日、東芝自動式電気釜ER-4として発売され、空前のヒット商品となります。この発明で三並は第1回科学技術長官賞を受賞しました。炊飯という重労働から当時の女性を解放したと三並の発明は評価されています。

愛媛県総合科学博物館では、自動式電気釜と心臓部のスイッチ機構、炊飯実験ノートを始め、初期の発明や商品、趣味の分野での活躍など、発明家、技術者三並義忠の生涯を顕彰する常設展示を公開しました。三並の発明とその生涯を博物館資料でぜひお楽しみください。

学芸課 専門学芸員 久松洋二

### Index

話 題	◆企画展「自然を記録しよう！標本の作り方」他紹介……………2・3
	◆企画展「パズル展」紹介 ◆開館25周年を迎えて……………4・5
活動報告	◆企画展「別子銅山・東平の思い出」他……………6
催し物のお知らせ	◆これからのイベント・博物館講座・ボランティア……………6・7
	◆プラネタリウム ◆サイエンスショー ◆各募集要項……………8
利用案内	◆開館時間 ◆観覧料 ◆開館カレンダー ◆交通案内……………8

# 企画展「自然を記録しよう！ 標本の作り方」

自然研究グループ 専門学芸員 小林真吾

## 二つの企画展 同時開催 2/22(土)～4/5(日)

場所：企画展示室

料金：常設展示観覧券が必要（中学生以下無料）

# 企画展「理科室の宝物」

～学校収蔵標本から地域の自然を再考する～

自然研究グループ 教育専門員 稲葉正和

標本は自然史系博物館を支える根幹となるもので、時にその博物館の歴史や特徴を示し、またある時には博物館の活動の方向性を特色付けることもあります。しかし一方で、標本とはそもそも何なのか、どのように作られているのか、さらには、学芸員・博物館が標本の価値をどのように見出しているのか、などについて、展示を通じて理解を深める機会は、あまり多くありません。総合科学博物館では、2月22日から4月5日まで、自然史標本をテーマとした2つの企画展示「自然を記録しよう！標本の作り方」と「理科室の宝物～学校収蔵標本から地域の自然を再考する～」を開催します。この2つの展示を通じて、標本づくりの面白さと標本が語る自然史の奥深さについて学んでみてはいかがでしょうか。

### 「自然を記録しよう！標本の作り方」

この展示では、自然界の様々なものを標本にする方法と、実際に作成された標本の数々を紹介します。この展示を参考にして、夏休みの自由研究などで活用してみたいでしょうか。

### 自然を記録すること

目の前にある動植物について記録を残して伝えるとき、どのような方法があるでしょうか？何も道具がなければ、じっくりと見て記憶することでしょう。記憶の場合、その人が見たことを言葉でしか伝えることができず、微妙な色合いや複雑な形は言葉にするのが難しいことと思います。記録するための道具がある場合、例えば紙と筆記用具や絵の具があればスケッチをします。当たり前のことですが、スケッチはその人の絵の技量によって、正確さが変わります。メモを書いて補うことはできても、正確な姿まで想像することは難しいかもしれません。カメラがあれば写真を撮影できます。写真の場合は、言葉やスケッチに比べて色や姿を共有しやすくなります。しかし写真といえども、よく注意して撮影しなければピントが合っていないこともあるし、見分ける時のポイントを写し損ねているかもしれません。こうした欠点を補い、確実に記録するために必要となるのが、実物をもとにした標本なのです。

### 標本とは

標本という言葉は辞書で調べてみると「生物学・医学・鉱物学などで研究用または教育用とするため、個体またはその一部に適当な処理をほどこして保存したもの」というように書かれています。私たちが博物館で収集している標本も、まさにこの表現に当てはまっています。特に重要なのが「適当な処理をほどこす」ことで、このプロセスこそが自然界から得たものを標本たらしめていると言っても過言ではありません。では一体、どのような方法で標本は作られていくのでしょうか。展示では、様々な分野の標本の作り方を紹介しますが、ここでは誌面の都合から海藻標本の作り方を紹介します。

### 海藻を標本にするには

子供の頃、本などに花をはさんで「押し花」を作ったことがある方もいらっしゃると思いますが、植物の一般的な標本である押し葉標本（さく葉）標本はその延長にあるものと言っても良いかもしれません。しかし、海藻などの植物を押し葉にするときには、ちょっと工夫が必要です。なぜなら、水中で生育している植物の多くは、水中から引き上げると体を支えることができないからです。

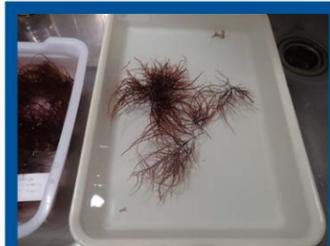


写真1: 海藻を容器に沈めて広げる



写真2: 形を整えて台紙ごと海藻をすくい上げる

そこで、まず水を入れた容器の中に海藻を広げて沈めます。(写真1)そして標本を載せる台紙(ケント紙など)も水に沈めて、下敷きで海藻ごとすくい上げて形を整えます。(写真2)普通の押し葉の手順では、台紙への配置は最後の仕上げに近い作業ですが、海藻では最初の作業になります。海藻はぬめりのある成分を含むため、押しつけて乾かす際にその成分で台紙に張り付いてしまいます。したがって、この段階でしっかり形を整えなければなりません。

こうしてすくい上げた海藻は、台紙ごとと吸収紙(新聞紙でも可)にはさんで乾燥させますが、吸収紙に張り付かないよう布やクッキングペーパーなどを標本の上にかぶせ、標本と吸収紙のサンドイッチを作ります。(写真3)普通の植物の場合はこれに重石を載せて乾燥させますが、海藻の場合は水分を多く含むため、もうひと工夫が必要です。サンドイッチの際にさらにダンボールではさんで、重石を乗せて扇風機などで風を送ります。(写真4)こうすることで標本の間に空気が流れ、早く乾燥させることができるようになります。

標本が乾燥したら、台紙の右隅の余白に採集時の情報や植物の名前などを書き込んだラベルを貼って完成します。先に「適当な処理を施すことで標本になる」と述べましたが、このラベルが存在するかどうかも標本にとって非常に重要となります。



写真3: 海藻の上にクッキングペーパーをかぶせる



写真4: 重石を乗せて扇風機で風を送る

愛媛県内の学校の理科室には過去の授業で使用されてきた様々な標本が収蔵されています。筆者が行った学校収蔵標本調査で、現在では入手することが困難な国の特別天然記念物に指定されている生物の標本や貴重な愛媛県産の自然史標本が多数発見されました(稲葉,2019)。ここでは、展示予定物の一部を紹介いたします。

### 理科室は動物園？

筆者が調査した学校の理科室には、カモノハシ、ハリモグラ、カンガルー、アザラシ(写真1)、なんとオランウータン(写真2)の標本まで収蔵されていました。また、特別天然記念物に指定されているコウノトリ、ライチョウ、アホウドリ、アマミノクロウサギ(写真3)なども収蔵されていました。これらは、標本業者が販売したのですが、どのようにして多種多様な標本を集めたのか、不思議に思うほどです。



写真1: アザラシ 所蔵: 愛媛県立新居浜西高等学校



写真2: オランウータン 所蔵: 愛媛県立今治西高等学校



写真3: アマミノクロウサギ 寄贈: 愛媛県立西条高等学校

### 河川を60km以上遡った海水魚ナガエバの標本

松野町を流れる四万十川の支流広見川で昭和37(1962)年8月から9月にかけて、海水魚であるナガエバが捕獲されるという奇妙な現象が起きました。愛媛新聞で大々的に報じられるとともに、愛媛大学の伊藤猛夫博士が現地調査に赴き、広見川でナガエバを採集したことが報告されています(伊藤,1963)。今回の調査で、伊藤(1963)に引用されたナガエバの証拠標本(写真4)が発見され、広見川に海水魚ナガエバが遡っていたことが裏付けられました。



写真4: ナガエバ(ギンガメアジ) 寄託: 愛媛県立松山北高等学校

### 愛媛県産としては2例目のニホンカモシカの標本

石鎚山系にはかつてニホンカモシカが生息していましたが、愛媛県産の標本は戦後すぐに高瀑(現西条市小松町石鎚)で捕獲された毛皮1点のみしか残されていませんでした(宮本,2014)。今回の調査で加茂村(現西条市)大保子谷産のニホンカモシカの毛皮(写真5、6)が発見され、過去の文献調査によっても大保子谷でのニホンカモシカの生息が確認されました(稲葉,2017)。発見された標本は、愛媛県産の標本としては2例目であり、ニホンカモシカの石鎚山系での生息を裏付ける貴重な記録となります。



写真5: ニホンカモシカの毛皮 寄贈: 愛媛県立西条高等学校 写真6: ニホンカモシカ(写真5)のラベル

### 宇和町(現西予市)で採集されたサギソウ

サギソウは日当たりのよい湿地に生える植物です。湿地は遷移の進行や干拓などの人為開発によって失われやすい脆弱な環境であり、県内のサギソウの自生地は今治市と宇和島市にしか残っていません。しかし、かつての愛媛県にはサギソウが広く分布していたようです。今回の調査で明治36(1903)年8月10日に宇和町(現西予市)で採集されたサギソウの標本(写真7)と大正3(1914)年に八幡浜町(現八幡浜市)で採集されたサギソウの標本が確認されました。今回展示予定のサギソウの標本は、かつてのサギソウの分布を裏付ける貴重な資料となります。



写真7: サギソウ 1903.8.10 宇和町(現西予市) 寄贈: 愛媛県立宇和高等学校

### 標本は過去からの贈り物

近年、急速な地球環境の変動や人為的な開発の影響により、自然は深刻なダメージを受けており、社会の中に豊かな自然環境を守り、生物多様性を保全しようとする問題意識が芽生えつつあります。しかし、生物多様性を保全するためには、まず私たちが住んでいる地域の中にどのような生物がいるのか、いたのかを正確に把握することが不可欠です。過去の歴史を知るために書物のページを紐解くように、先人から遺された標本の一つ一つに向き合うことで、私たちは過去の自然環境の豊かさを知り、現在の自然環境の変化を憂い、未来へどのような自然環境を残すべきかを考えることができます。今回の展示では、筆者が心を動かされた貴重な標本を多数展示しております。ぜひご来館いただき、過去の研究者の息吹を感じていただければ幸いです。

### 引用文献

稲葉正和(2019): 理科室の宝物-博物館と学校を繋ぐ学校収蔵標本. 博物館研究 54(12): 14-17.  
稲葉正和(2017): 新居郡加茂村大保子谷(現西条市藤之石)で捕獲されたニホンカモシカ *Capricornis crispus*. 愛媛県総合科学博物館研究報告 22: 35-39.  
伊藤猛夫(1963): 河川におけるナガエバ *Caranx sexfasciatus* Quoy et GAIMARD(アジ科)の生息について. 水産増殖 11(4): 229-242.  
宮本大右(2014): 愛媛県レッドデータブック 2014 RED DATA BOOK EHIME-愛媛県の絶滅のおそれのある野生動物-愛媛県県民環境部環境局自然保護課: 59.

# パズル展

開催期間：2020年4月  
場所：企画展示室

## パズルって何？

皆さん、「パズル」って聞いて何を想像しますか？ジグソーパズル？それともルービックキューブでしょうか？「パズル」と一言でいっても、実に様々な種類があるんですよ。今回、春の企画展では、「パズル」をテーマに開催します。お越しいただくと…



普段、**目にしたことのないパズルと対面することになる**でしょう。また、そのパズルを前に**楽しみながらも頭を試行錯誤させる**ことになるはず。なぜなら、**パズルには数学的な背景がある**からです。



パズル…実施イメージ①



パズル…実施イメージ②

## 数学的原理とパズル

数学は、自然科学を支える概念や記述方法を提供する学問でもあります。普段、パズルを楽しむことを目的に遊んでいます。遊び要素の背景には、「数学的」原理を論理的考察と試行錯誤によって体験する要素も含まれています。論理的思考や問題解決能力は、今後生きていく私たちにますます求められる力ではないでしょうか？特に、「プログラミング教育」が必修化していく子供たちにとっては、特に必要ではないでしょうか？

## 「手で触れて」「頭で考えてみる」

最近では、パソコンやスマートフォンで、手軽にゲームを楽しむことができますよね。直接、「手で触れて」「頭で考えてみる」アナログ的な世界をぜひ体験してみてください。ご家族皆さんで楽しめる展示となっています。ご家族の会話の一つにもなるはず。お待ちしております。



パズル…実施イメージ③



屋外展示場にあります。

別子銅山の鉱石を製錬する電力にも使われたよ。

昭和11年当時国内最高出力の発電タービン。平成15年度設置。



中四国・九州の博物館ではココだけ

スーパーコンピュータ京。8月にシャットダウン。11月当館設置。



主に企画展用に当館学芸員が製作した体験展示を移設。科学技術館をリニューアルした平成17年度から順次設置。

令和元年11月11日(月)に、愛媛県総合科学博物館は開館25周年を迎えました。その間「常設展示」は、時代や社会の変化に対応しながら、えひめ科博の「顔」として重要な役割を果たしてきました。平成13年当時の常設展示リーフレットと現在の展示室の写真から、その変化の一部を見比べてみましょう。(リーフレット中、赤枠の展示物はリニューアルの際に新しい展示物と入れ替わっています。)

平成13年当時の常設展示リーフレット(自然館)

宇宙から地球、愛媛へとマクロからミクロにズームアップ。

科学技術の参加型体験と愛媛の基幹産業と伝統産業。

平成13年当時の常設展示リーフレット(科学技術館と産業館)

## 四半世紀の時を刻んで さらなる進化を続ける 愛媛県総合科学博物館



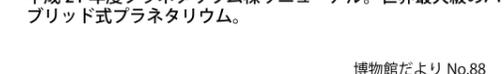
平成23年度自然館リニューアル。動く恐竜も2代目で世界最大級。



二ホンカワウソは昭和54年以来目撃例がなく、絶滅が心配されています。



愛媛で捕獲・寄贈されたカワウソを多数展示。ジオラマやパネルも。



平成21年度プラネタリウム棟リニューアル。世界最大級のハイブリッド式プラネタリウム。

# 活動報告

## ▶企画展「別子銅山・東平の思い出」10/26(土)～12/1(日)

●新居浜発展の基礎を作った別子銅山の展示とあって、東平出身の方のみならず、一般の方や研究者などがたくさん訪れました。  
●展示室では、銅山の仕事や生活の様子を胸に刻み込むように観覧され、トークイベント、専門講座、新居浜南高ユネスコ部の案内にも熱心に聴き入り、感銘を受けた様子でした。



東平の思い出トークイベント

専門講座：銅山の採掘・運搬方法



ギルディング和紙フォトスポット

南高ユネスコ部の楽しいプレゼン

## ▶開館25周年記念イベント 11/2(土)～11/4(月)

●昨年は科博開館25周年節目の年になりました。「五十嵐美樹サイエンスショー」は、「U.S.A」を踊りながらの実験からスタート。観客はプラネタリウムでいつもと違う雰囲気ショーを満喫しました。  
●初企画の「おしゃれさんコンテスト」は、恐竜や宇宙の服装でたくさんの方が参加。とても盛り上がりました。



迫力満点のサイエンスショー!



おしゃれさんカッコイイ～!!

## ▶巡回展「国際周期表年2019 特別展」12/14(土)～1/26(日)

●四国初の「元素検定スペシャル@愛媛」が開催され、講演会も含め、会場は熱気に包まれました。好きな元素記号との記念写真をInstagramに投稿したり、「元素缶バッジ」「周期表スタンプラリー」「ふたたびメンデレーカハクンからの挑戦状」など、元素や周期表に親しむためのイベントが多数行われ、来観者も楽しみながら体験しました。



元素検定スペシャル@愛媛

わたしはこの元素が好き!



小川正孝とアジア初の新元素発見

周期表スタンプラリー

## これからのイベント

### ▶みんな集まれ! わくわくサイエンス広場...2/8(土)9(日)

### ▶春の特別イベント...3/20(金・祝)～22(日)

●実物大の大きさを誇る恐竜ロボットのリニューアル初公開日にちなみ、普段近づくとできない恐竜ロボットの足元で記念撮影ができます。(3日間限定です。) 20・22日は15時30分より恐竜体操もあります。元気よく参加しましょう!

※詳しい内容はHP、館内ポスターでご確認ください。



恐竜と記念撮影できるよ!



# レッツ トライ! かはくボランティア!!

企画普及グループ 立岩雅弥

総合科学博物館では、地域住民の自主的・自発的なボランティア活動を支援し、博物館活動への参画を促進するとともに、来館者サービスの向上を図るためボランティア制度が設置されています。2019年度(12月末時)は113名が登録し、様々な活動を行いました。

### サポーターボランティア



イベント時の工作や博物館講座などの体験補助を行いました。

### ナビゲーターボランティア



展示案内や解説などを行いました。

### リサーチボランティア



資料の整理や企画展の準備、修繕のお手伝いを行いました。

### ボランティア研修会



学芸員の展示解説を聞き、展示紹介の仕方などを学びました。

●ボランティア活動を通して、自身のスキルをアップさせよう!  
未知の経験、新しい人とのつながりの場にもなりますよ!

**応募方法は**  
●当博物館だよりP8の「かはくボランティア募集中」をご覧ください。

## 博物館講座参加者募集!

■大人のための科学講座■  
企画展「理科室の宝物～学校収蔵標本から地域の歴史を読み解く～」  
ギャラリートーク

- ▶場所：企画展示室・第1研修室
- ▶定員：各回20名 ▶参加費：50円
- ▶対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)
- 《A》3月7日(土)13時30分～15時30分
- ▶応募締切：2月21日(金)
- 《B》3月15日(日)13時30分～15時30分
- ▶応募締切：2月28日(金)

■かんたん実験工作教室■  
オリジナルキャンドルを作ろう  
共催：博物館友の会科学クラブ  
～申し込み不要の手軽な実験工作教室です～

- ▶3月8日(日)13時30分～15時
- ▶場所：博物館エントランスホール
- ▶定員：30～50名程度
- ▶参加費：150円
- ▶講師：友の会科学クラブ

### 博物館講座の申し込み方法

□博物館ホームページ「学ぶ」>「講座」>「参加する」のフォームか、  
□往復はがき□FAXのいずれかに、下記の事項を明記して博物館まで応募ください。

- ①希望講座名、開催日 ②希望者全員の氏名、年齢(児童・生徒は学校名と学年) ③住所、電話番号 ④返信先FAX番号またはメールアドレス(FAXまたはインターネットでお申し込みの方のみ)

※1通につき1講座5名までお申し込みできます。  
※定員に満たない場合は、申込締切後も受け付けます。

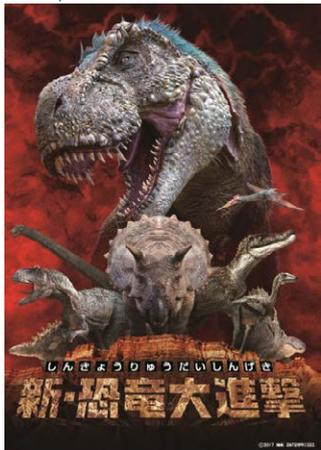
※応募多数の場合は抽選で決定し、全員に結果をお知らせします。  
※応募の際の個人情報は、博物館講座に関する連絡以外の目的では使用いたしません。  
ご不明な点がございましたら、お気軽に博物館までお問い合わせください。

愛媛県総合科学博物館 企画普及グループ  
〒792-0060 新居浜市大生院2133-2  
電話 0897-40-4100 FAX 0897-40-4101  
<http://www.i-kahaku.jp/>

博物館だより No.87 訂正 No.87・7ページ「秋の星空のお話」土星とアンドロメダ銀河の写真につきまして、以下のように訂正いたします。  
×博物館天文台にて撮影 ○松山市にて撮影

# プラネタリウム Planetarium

## ★プラネタリウム番組のご案内★



©2017 NHK ENTERPRISES

最新研究から、圧倒的な強さの秘密が明らかになった史上最強の恐竜・ティラノサウルス。日本の恐竜史上最大級の丹波竜。恐竜の誕生から絶滅まで超高精細のCGを駆使して恐竜の時代へタイムスリップ!

※投影スケジュールはHPをご確認ください。



©nWave Pictures

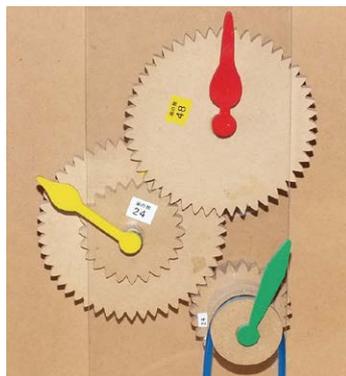
アポロ11号に乗った宇宙飛行士がはじめて月面に第一歩をしるした1969年。ナットは親友のIQとスクーターに重大な決意を伝えた。「ボクは月に行く。みんなも一緒だ。もうすぐロケットが打ち上げられる。あのロケットにもぐりこんで、月を目指そう!」ナット、IQ、スクーターの大冒険が今、始まる。

# Science Show サイエンスショー

## 「グルグル!カタカタ? 歯車&カムの大実験」



私たちの身の回りには機械の中には歯車やベアリング(軸受け)、カムなどの部品がグルグル、カタカタと動いています。凹凸の歯と歯をかみ合わせて動きを伝える歯車、



金属のボールを転がし摩擦を少なくしてスムーズな動きを作り出すベアリング、楕円や凹凸のある円盤を回転させて直線運動を作り出すカムなどが用途に合わせてさまざまな動きを作り出しています。

今回のサイエンスショーでは、歯車やカムなどの動くヒミツを実験で紹介します。

- 期間■ 2020年1月11日(土)～4月12日(日)の土日祝
- 時刻■ 1回目13時、2回目15時開演(実演時間約25分)  
春休み期間中(3/25-4/5)の水曜日は13時開演
- 場所■ 博物館展示棟3階 科学技術館 実験ショーコーナー  
※常設展観覧券が必要です。

# 博物館 友の会 Supporting Membership of the Museum

## 友の会・会報の原稿を書いてみませんか?

- 博物館友の会事務局では、会報に掲載する原稿を募集しています。
- イベントに参加して、博物館を利用して、身の回りの自然科学...など、何でもOK!クラブ活動体験記(クラブでの活動の報告や感想)、博物館探検記(博物館でこんな楽しいものを見つけたよ!博物館のココが好き!)イベントに参加しての感想など、何でもお寄せください。掲載させていただいた方には、些少の御礼をお渡します。
- 今年度より、メールでも受け付けます。メール、郵送、またはFAXで、お気軽にお送りください。

- お問い合わせ・原稿の送り先  
〒792-0060 新居浜市大生院2133-2  
愛媛県総合科学博物館 友の会事務局 電話兼FAX 0897-40-4115  
E-mail tomonokal@sci-museum.niihama.ehime.jp

# Volunteer of the Museum 博物館ボランティア

## かはくボランティア募集中!

### [登録方法]

### ◇活動日時

主に、博物館内イベントなどに合わせて活動をしています。

### ◇対象

博物館でのボランティア活動に興味を持つ高校生以上の方  
※年度更新の登録制です

○ホームページ「かはくボランティア」のフォームより入力するか、ホームページからダウンロードした登録用紙に必要事項を記入し、郵送、FAXしてください。来館時、職員に登録用紙をお渡し下さってもかまいません。

※高校生は、保護者のご了解(署名と捺印)を得た上で、登録用紙を郵送または来館時、職員にお渡しください。

【郵送先】〒792-0060 新居浜市大生院2133-2  
愛媛県総合科学博物館

【FAX】0897-40-4101

- お問い合わせ  
愛媛県総合科学博物館 企画普及グループ 0897-40-4100(代)

# 利用案内

## ●開館時間

午前9時から午後5時30分まで(展示室への入室は午後5時まで)

## ●観覧料

### □常設展示

	観覧料
大人(高校生以上)	520円(420円)
65歳以上の方	270円(220円)
小・中学生	無料

※( )内は20名以上の団体料金

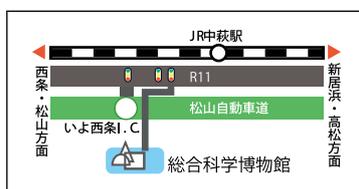
### □プラネタリウム

	観覧料
大人(高校生以上)	520円(420円)
65歳以上の方	270円(220円)
小・中学生	270円(220円)

※( )内は20名以上の団体料金

## ●交通案内

- 松山自動車道いよ西条ICから車で5分
- JR新居浜駅、伊予西条駅からタクシーで15分  
せとうちバス(西条～中萩～新居浜線)で20分
- 無料駐車場(乗用車320台、大型バス8台)あり



## ●開館カレンダー

2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1	1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8	8	9	10	11	12	13	14
9	10	11	12	13	14	15	15	16	17	18	19	20	21
16	17	18	19	20	21	22	22	23	24	25	26	27	28
23	24	25	26	27	28	29	29	30	31				
4月							5月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1						1	2
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30	31		24	25	26	27	28	29	30

●休館日 ●特別イベント ●臨時休館日

※変更になる場合があります。HPでご確認ください。